



Title	真田安先生のご逝去を悼む
Author(s)	新免, 康; SHINMEN, Yasushi
Citation	日本中央アジア学会報, 15, 77-86
Issue Date	2019-07-31
DOI	https://doi.org/10.14943/jacas.15.77
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/88378
Type	journal article
File Information	JB015_004shinmen.pdf



真田安先生のご逝去を悼む

新免 康

真田安先生が本年3月にご逝去された。まことに痛惜の念にたえない。先生は日本中央アジア学会の現役の理事であられ、本学会は大きな痛手を受けたと言わざるを得ない。とくに、親しく先生の警咳に接してきた学会会員たちにとってあまりに突然のことであり、ショックが深かったと思う。

周知のように、真田先生は埼玉県の県立高等学校の教諭として教鞭をとられながら精力的に研究を展開され、多くの研究成果を出されてきた。本学会元理事の設楽國廣先生・梅村坦先生のご配慮のもと、ご家族の方のご厚意により、ご経歴とご研究業績に関するデータをお寄せいただいた。これをもとに、先生の「経歴と業績」を下記に掲載させていただく（ご業績については、新免の方で項目等についていくらか調整を施すとともに、若干の補充を行った）。

先生のご研究は、カシュガルを中心とするタリム盆地西部のオアシス地域（いわゆるカシュガリア）に焦点を当て、中央アジア・オアシス社会のあり方について解明するものであり、その問題意識は一貫していたと言える。ご研究成果は、大きくは二つの視角からなされていると考えられる。一つは、バザールを軸とするオアシス社会の経済的メカニズムを、19世紀の歴史的状況と現代の状況の両面から明らかにするものであり、もう一つは清朝統治下におけるオアシス社会の権力構造にアプローチするものである。前者のご研究成果において注目されるのは、19世紀における歴史的状況だけでなく、それと関連づけられる形で、新疆現地での実地調査によって得られた知見に基づく部分も相応の比重を占めていることである。とくに1996年の夏に実施された実地調査は、カシュガル・オアシスのバザールや農村部の内部に入り込み、先生の具体的なご関心にしたがって聞き取りや観察を行ったものであり、先生のご研究にとって大きな意味をもっていたと思う。

1996年7月、新疆のバザールとマザールの調査旅行を企てた真田先生、王建新さん（現：蘭州大学）、そして私は、3人でチームを組み、いっしょに新疆に向かった。ウルムチからトルファンに移動して盆地各地のマザールなどを廻った後、ウルムチから飛行機でカシュガルまで飛び、カシュガルの都市バザール、周辺部のアトウシユヤオパール、ベシユケラムの農

村部・農村バザールなどで調査を重ねた。それからカシュガルで自動車を借り上げ、陸路を西から東にアクス、クチャ、コルラとたどり、各都市でモスクなどを見学しながらウルムチに戻るといふ、まさに天山南路の主要オアシスを周遊する行程であった。私は幸いにも、そのすべてにわたって先生とごいっしょすることができた。その中で先生は、さすがに最後の陸路移動の途中ではいくらか疲れを感じさせるご様子であったものの、あの新疆における真夏の暑さの中、全体を通して実に澁刺たるエネルギーに満ちておられた印象がある。同行させていただいた私も、とても充実した時間を過ごした。

現地調査において真田先生は、その文献史料に基づくご研究におけると同様、まさにその本領を発揮された。まず準備段階における調査地の設定など調査の基本計画の策定作業、インタビューの質問項目・内容や聞き取り・観察の段取りなどに関する検討作業を主導されるとともに、調査時においても、商人や農民の方々へのインタビューを始めとして、常に中心的な役割を担われた。また、その合間には、調査地で援助いただいていた現地協力者・情報提供者(大学教員などの知識人)に対し、疑問点の解消のために時間をかけて質問を重ねられていたことも記憶に残っている。先生が自らの学問的関心に基づき、目の前にある事象の内実を真摯に探究されるお姿は、いまでも私の胸に深く刻まれている。このとき、先生が長年取り組んでこられたテーマの中で歴史的な文字史料からは手の届かなかった問題を、現地調査の場で解き明かすために力を尽くされるプロセスに立ち会うことができたことは、私にとって本当に幸運かつ貴重な経験であったと言える。

さて、真田先生の日本中央アジア学会への関わりについてである。先生が本学会の成立と発展において決定的に重要なご貢献をされたことは言を俟たない。周知のように、本学会の母体になったのは、西伊豆の松崎町における研究合宿(いわゆる「まつざきワークショップ」)である。第1回のまつざきワークショップは、新疆研究に関わる12名により行われたものであり、もちろん真田先生はその中心メンバーとして参加された。第2回目以降、旧ソ連領中央アジア関連の研究者たちも出席するようになり、参加者数もどんどん増加する中、毎回欠かさずご参加になった。私の運転する車でごいっしょに松崎に向かったこともある。その後、まつざきワークショップを母体として日本中央アジア学会が設立された際には、理事に就任されるとともに、自ら進んでワークショップの実行委員長に手を挙げられ、私が学会会長の任を終えるまで年次大会の運営に多大なご尽力をいただいた。

研究合宿は通常の学会大会に比べ、事前準備も含め業務のプロセスが複雑であり、またその量も多い。毎年1月に、実行委員を務める若手研究者の方々を交えて、長時間にわたる事前打ち合わせを実施した。その際には毎度必ずご出席の労をとっていただき、有益なご助言等をいただいた。さらに、研究合宿の場所を西伊豆の松崎町から近場に移すことが事務局にとっての課題として浮上した際には、新たな会場探しにおいて甚大なお骨折りをたまわった。

三浦半島や江ノ島、東京本郷などに位置する、候補となる諸施設を、真田先生を中心に、若手研究者の方々といっしょに回って、それぞれの施設に対する評価を行い、最終的に江ノ島に決まったという経緯がある。

本学会は最初の松崎での研究合宿以来、現会長の宇山先生に会長職が移るまで、いちおう私が責任者を担う形になってはいたが、力不足が覆いがたく、迷ったり悩んだりする場面も多々あった。そういうとき真田先生のご存在と具体的なお力添えがどれほど心強く感じられたか、言葉では言い表せないほどである。ご多忙のなか、こちらのさまざまな勝手なお願いにいつも快く応えていただいたことに対する心苦しさとともに、本当に感謝の念は深い。そして何よりも、真田先生は、毎回の研究会の場でとくに若手の発表者に対し積極的に触発的な質問を繰り出され、会の活性化に意を用いられるとともに、交流の場においては、深更に及ぶまで会員たちと熱く語り合い、場を盛り上げられていた。先生と触れ合う中で、学問面において大いに啓発され、さらには人生を歩む上での含蓄深い示唆を与えられた若手の会員も少なくないと思う。先生の暖かいお人柄と洒落な語り口が、交流の場全体に魅力的な波動を生じさせていたように感じる。

このように真田先生は、日本中央アジア学会にとって最大の功労者のうちの一人であり、さまざまな面においてまさに「恩人」であると言って過言ではないであろう。いまだにダメージから立ち直れないでいるが、先生のご貢献に思いをいたし、本学会がさらに充実したものになるよう努力を重ねていきたいと思う。

真田安先生 御経歴と御業績

経歴

- 1949年1月2日 静岡県に生まれる
- 1973年3月 東洋大学文学部史学科東洋史専攻卒業
中学1級、高校2級教員免許取得(社会)
- 1973年4月 中央大学大学院文学研究科東洋史学専攻修士課程入学
- 1975年3月 中央大学大学院文学研究科東洋史学専攻修士課程修了(文学修士)
高校1級教員免許取得(社会)
- 1975年4月 中央大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士課程後期課程入学
- 1978年3月 中央大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士課程後期課程単位取得満期退学
- 1978年4月 埼玉県立上尾東高等学校教諭(～1983年3月)
- 1983年4月 埼玉県立大宮武蔵野高等学校教諭(～1997年3月)
- 1983年4月 東洋大学アジア・アフリカ文化研究所研究員(～2004年3月)
- 1987年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員(～1992年3月)
- 1991年4月 立正大学教養部非常勤講師(歴史学担当)(～1992年3月)
- 1993年4月 立正大学教養部非常勤講師(歴史学担当)(～1996年3月)
- 1996年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員(～1999年3月)
- 1997年4月 埼玉県立浦和商業高等学校教諭(～2009年3月)
- 1998年4月 立教大学観光学部兼任講師(外国史担当)(～2012年3月)
- 2000年4月 九州大学文学部・大学院文学研究科非常勤講師集中講義(イスラム文明学講義担当)
- 2003年9月 立教大学文学部兼任講師(東洋史特講担当)(～2006年3月)
- 2004年4月 東洋大学アジア文化研究所客員研究員(～2010年3月)
- 2009年4月 埼玉県立鷹の台高等学校(～2010年3月)
- 2010年4月 埼玉県立北本高等学校(～2011年3月)
- 2010年4月 駿河大学経済経営学部非常勤講師(～2018年3月)
- 2013年4月 埼玉県立大宮工業高等学校(～2015年3月)
- 2015年4月 埼玉県立中央高等学校(～2016年3月)
- 2019年3月22日 逝去

※学会等活動

- 白山史学会 (東洋大学史学科)・会員 (1973年 9月～)
- 日本イスラム協会・会員 (1975年 6月～)
- 内陸アジア史学会・会員 (1976年 11月～)
- 白東史学会 (中央大学東洋史学研究室)・会員 (1977年 3月～)
- 日本中東学会・会員 (1993年 5月～ 2009年 3月)
- 日本中央アジア学会・理事 (2004年 4月～)
- 中国ムスリム研究会・会員 (2002年 5月～)

研究業績

1. 書籍

- 『新疆ウイグルのバザールとマザール』(新免康、王建新との共著)東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2002年

2. 論文、書籍分担執筆、など

- 「オアシス・バーザールの静態研究——19世紀後半カシュガリアの場合——」『中央大学大学院研究年報』(6)、1977年、207-220頁
- 「『西域同文志』卷十二・十三「天山南路回部人名二・三」について」『白山史学』(19)、1977年、20-34頁
- 「綿業からみたカシュガリア・オアシス社会の一断面——一八七〇年代について——」『中央大学アジア史研究』(2)、1978年、29-50頁
- 「創設期清伯克制からみたカシュガリア・オアシス社会」護雅夫編『内陸アジア・西アジアの社会と文化』山川出版社、1983年、437-458頁
- 「都市・農村・遊牧」佐藤次高編『講座イスラム3 イスラム・社会のシステム』筑摩書房、1986年、107-148頁
- 「東西都市像の分水嶺——中国共産党解放期の調査報告からみたカシュガリアの都市像——」『文部省科学研究費重点領域研究「比較の手法によるイスラームの都市性の総合研究」「イスラームの都市性・研究報告」』研究報告編(21)、1989年、1-10頁
- 「バーザール・ネットワークと参詣・巡礼路——カシュガル・オアシス地域試論——」『1988年報告 イスラム圏における異文化接触のメカニズム：市の比較研究』1、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1989年、21-40頁

- 「東トルキスタン紀行覚え書き—— 沙漠とオアシス、農村と灌漑組織——」清水宏祐編『イスラム都市における街区の実態と民衆組織に関する比較研究』東京外国語大学、1991年、141-157頁
- 「東西都市像の分水嶺—— 時空軸の中の中央アジア都市——」(シリーズ：イスラームの都市性-6-)『学術月報』45(6)、1992年、580-587頁
- 「東西都市像の分水嶺—— 時空軸の中の中央アジア都市——」板垣雄三・後藤明編『イスラームの都市性』日本学術振興会、281-301頁
- 「『ターリヒ・エミニエ』序章から読取れる東トルキスタン史の諸相の若干」菅原純、新免康編『GULBAGH』現代ウイグル語研究会、1992年、207-219頁
- 「イスラーム研究の最新動向—— 世界史像への新視点の発見——」『社会科研究集録』(埼玉県高等学校社会科教育研究会)(29)、1993年
- 「現代中国の民族政策の底流—— 新疆ウイグル民族からの視点——」『社会科研究集録』(埼玉県高等学校社会科教育研究会)(33)、1997年
- 「バザール・混沌の奥にある社会システムを求めて」(特集 越境する新疆・ウイグル)『アジア遊学』(1)、1999年、54-70頁
- 「新疆ウイグルのバザール—— 商品経済で成り立つ中央アジアのオアシス社会——」『文明のクロスロード Museum Kyushu』(博物館等建設推進九州会議)18(4)(通巻(70))、2001年、53-60頁
- 「歴史概念としてのシルクロード批判——『世界史』にとって「シルクロード」はどこまで有効か——」埼玉県高等学校社会科教育研究会『社会科研究集録』(41)、2005年
- 「バザール—— オアシスの市場」中国ムスリム研究会編『中国ムスリムを知るための60章』明石書店、2012年、142-146頁
- 「バザールと人々」帯谷知可、北川誠一、相馬秀廣編『朝倉世界地理講座 5 中央アジア』朝倉書店、2012年、156-169頁
- 「乾隆25年カシュガル反乱—— 中央アジア・オアシス社会の権力構造の究明にむけて——」『中央大学アジア史研究』(38)、2014年、148-112頁
- 「カシュガリアにおける清朝征服期・統治初期のオアシス権力抗争」高橋継男教授古稀記念 東洋大学東洋史論集編集委員会編『高橋継男教授古稀記念 東洋大学東洋史論集』東洋大学文学部史学科東洋史研究室発行/汲古書院発売、2016年、503-539頁
- 「新疆におけるバザール・マザール調査(1996年)をめぐって」(新免康との共著)中央大学政策文化総合研究所「日本とユーラシア社会—— 海洋と大陸の歴史・文化」プロジェクト編集・発行『研究報告書 日本とユーラシア社会：調査の現場から』、2017年、39-53頁

3. 高等学校教科書の分担執筆

- 『新世界史A』清水書院、1993年(担当：前近代の中国史、中央ユーラシア史、イスラム史)
- 『新世界史A 改訂版』清水書院、1998年(担当：中国を中心とした東アジア史の古代から現代までの通史、東西交渉史、中央ユーラシア史)
- 『高等学校世界史A』清水書院、2003年(担当：中央ユーラシア史、東西交流史、アジアの近代史)

4. 書評・新刊紹介等

- 「嶋崎昌『隋唐時代の東トウルキスタン研究——高昌国史研究を中心として——』『歴史学研究』(472)、1979年、51–55頁
- 「内陸アジア：中央アジア」(一九八三年の歴史学界——回顧と展望——)『史学雑誌』93(5)、1984年、248–255頁
- 「清水論文へのコメント(清水宏祐「イラン史の中の都市像——10～11世紀のニーシャープール——」『史潮』新28号、1990年、40–43頁
- 「岡崎正孝編『中東世界——国際関係と民族問題——』(世界思想ゼミナール)世界思想社、一九九二・一刊、四六、二五九頁、一九五〇円」『史学雑誌』101(6)、1992年、124–126頁
- 「財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター編・発行『日本における中東・イスラーム研究文献目録 一八六七—一九八八年』汲古書院発売(一九九二年三月刊、八〇二頁、六三〇〇円)」『歴史と地理』(447)(『世界史の研究』(153))、1992年、51頁
- 「片岡一忠著『清朝新疆統治研究』」『史学雑誌』102(11)、1993年、92–103頁
- 「私市正年「イスラム聖者 奇跡・予言・癒しの世界」講談社現代新書(一九九六年三月刊、二三〇頁、六五〇円)」『歴史と地理』(492)(『世界史の研究』(168))、1996年、52頁
- 「伊原弘・梅村坦著『宋と中央ユーラシア』(世界の歴史7)中央公論社、一九九七・六刊、四六、四七八頁、二五二四円」『史学雑誌』107(1)、1998年、124–125頁
- 「〈書評〉小松久男編『世界各国史4 中央ユーラシア史』」『歴史と地理』(549)(『世界史の研究』(189))、2001年、50–55頁
- 「小松久男著『激動の中のイスラーム：中央アジア近現代史』山川出版社、2014年4月刊、A5判、128頁、1,200円+税」『内陸アジア史研究』(30)、2015年、94–96頁

5. 辞典・事典項目執筆

- 『日本大百科全書』小学館、1985～88年(担当項目：「カシュガル」、「ヤルカンド」)
- 板垣雄三、後藤明編『事典イスラームの都市性』亜紀書房、1992年(担当項目：「ウイグル」、「カシュガル」)

- 松原正毅編集代表、NIRA編集『世界民族問題事典』平凡社、1995年(担当項目:「カシュガル」)
- 西川正雄等編『世界史辞典』角川書店、2001年(担当項目:17世紀～20世紀初頭の中央アジア・新疆関係、合計37項目)
- 小松久男、梅村坦、宇山智彦、帯谷知可編『中央ユーラシアを知る事典』平凡社、2005年(担当項目:特別項目「オアシス」、「バザール」;一般項目「カシュガル」、「西域水道記」、「西域同文志」、「平定準噶爾方略」)

6. 学会口頭報告・講演

- 「カシュガリアの伯克の支配力について」第11回白山史学会大会(於:東洋大学)、1973年11月
- 「カシュガリア・オアシス考——ヤクブ・ベク治下(1865-77)のバーザールを中心として——」東洋大学アジア・アフリカ文化研究所月例研究会(於:東洋大学)、1975年10月
- 「綿業からみたカシュガリア・オアシス社会の一断面——1870年代について——」中央大学白東史学会1977年度第4回月例研究会(於:中央大学)、1977年10月
- 「創設期伯克制から窺えるカシュガリア・オアシスの社会構造の一端」内陸アジア史学会1979年度大会(於:早稲田大学)、1979年11月
- 「清朝治下カシュガリアの一土着支配者像」第5回中央大学白東史学会大会(於:中央大学)、1979年12月
- 「イスラム社会における都市・農村・遊牧——19世紀カシュガルの商品流通からみた——」中央大学白東史学会1984年度大会(於:中央大学)、1984年11月
- 「オアシス地場産業と「シルクロード」交易の原像」東洋大学白山史学会1987年度第5回月例研究会(於:東洋大学)、1987年6月
- 「バーザール・ネットワークと巡礼・参詣路——カシュガル・オアシス地域試論——」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・共同プロジェクト「イスラム圏における異文化接触のメカニズム——市の比較研究——」1987年度第2回研究会(於:東京外国語大学)、1987年10月
- 「東西都市像の分水嶺:中国共産党解放期の調査報告からみたカシュガリアの都市像」文部省科学研究費重点領域研究「比較の手法によるイスラームの都市性の総合的研究」S班「イスラーム都市における民衆組織と民衆運動」第1回研究会(於:東京大学)、1988年9月
- 「乾隆カシュガル蜂起——伯克支配力とオアシス権力構造基底部——」東洋史研究会1989年度大会(於:京都大学)、1988年11月
- 「「イスラーム化以後の東トルキスタン都市」について」文部省科学研究費重点領域研究「比較の手法によるイスラームの都市性の総合的研究」S班「イスラーム都市における民衆組織と民衆運動」シンポジウム「東トルキスタン都市の歴史的展開」(於:道後温泉)、1990年1月

- 「東トルキスタン紀行覚え書き：沙漠とオアシス、都市と農村、バザール(商業)とマザール(信仰)」中央大学白東史学会 1990年度大会(於：中央大学)、1990年11月
- 「新疆ウイグル社会のバザール(商業)とマザール(信仰)：文献史学とフィールド・ワークのつながり」東洋大学アジア・アフリカ文化研究所月例研究会(於：東洋大学)、1991年10月
- 「イスラーム研究の最新動向——世界史像への新視点の発見——」埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部会 1992年度2学期研究会、1992年11月
- 「バザール(商業)とマザール(信仰)のアラベスク——カシュガル地域社会から「イスラーム」世界を想う——」福岡国際文化交流協会主催平成5年度アジア学講座「イスラーム世界の諸相」(於：福岡市パピヨン)、1994年2月
- 現代中国の民族政策の底流——新疆ウイグル民族からの視点——」埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部会 1995年度3学期研究会、1996年2月
- 「農村生活とバザール——商品経済によって成り立つ世界——」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、共同プロジェクト「イスラム圏における異文化接触のメカニズム：人間移動と情報に関する総合研究」(於：東京外国語大学)、1997年7月
- カシュガル・オアシス社会史を廻る二題——オアシス農村組織とイスラム国際商人予備軍、そして接点——」九州史学会平成9年度大会(於：九州大学)、1997年12月
- 「回り舞台天山南路めくるめくマザール宗教調査の旅——ウイグル・イスラーム信仰と中国新疆イスラーム宗教政策の現状——」日本アルタイ学会(第35回野尻湖クリルタイ)(於：藤屋旅館)、1998年7月
- 「ウイグル・イスラーム信仰と現代中国新疆イスラーム政策の歴史的系譜」中央大学白東史学会 1998年度大会(於：中央大学駿河台記念館)、1998年11月
- 「歴史概念としてのシルクロード批判——『世界史』にとって「シルクロード」はどこまで有効か——」埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部会 2004年度2学期研究集会、2004年11月
- 「Rethinking Bazar and Mazar in Kashgar」中央大学人文科学研究所・研究会チーム「イスラーム地域における聖地巡礼・参詣」公開講演会(於：中央大学駿河台記念館)、2010年12月
- 「乾隆25年カシュガル反乱——中央アジア・オアシス社会の権力構造の究明にむけて——」中央大学白東史学会 2012年度大会(於：中央大学駿河台記念館)、2012年12月

7. 海外調査

- 調査期間：1988年7月25日～8月26日、調査地：トルコ共和国およびモロッコ王国(文部省科学研究費補助金(国際学術研究)・研究課題「イスラム都市における街区の実態と民衆組織に関する比較研究」(研究代表者：清水宏祐、研究番号：01041034)による調査)
- 調査期間：1989年8月3日～8月21日、調査地：中華人民共和国新疆ウイグル自治区(文

部省科学研究費補助金(国際学術研究)・研究課題「イスラム都市における街区の実態と民衆組織に関する比較研究」(研究代表者:清水宏祐、研究番号:01041034)による調査)

- 調査期間:1996年7月24日～8月16日、調査地:中華人民共和国新疆ウイグル自治区(文部省科学研究費補助金(国際学術研究)・研究課題「イスラム圏における人間移動と共生システムに関する調査研究」(研究代表者:家島彦一、研究番号:06041034)による調査)

(中央大学文学部)